



自分たちで見て、聞いて、考えてつくった 子ども向け広報紙「こどもいちかわ」

こどもいちかわ創刊

市内の小学校に通う4人の子どもたちが編集委員になって、子ども向け広報紙「こどもいちかわ」を発行しました。

「子どもの、子どもによる、子どものための広報紙」を合言葉に、2003年の6月に制作がスタート。まちの話題や自分たちの問題からテーマを選び、取材、原稿づくり、校正までのすべてを手がけます。

記念すべき第1号の編集委員は新井小学校6年の大木初里さん、坂田桃香さん、大野小学校5年の坂田裕香さん、土橋悟くんの4人です。テーマを「防災」に決め、市

の消防署や松戸市にある千葉県西部防災センターを取材し、職員に話を聞き、実際に体験して内容をまとめました。

この「こどもいちかわ」は年に4回発行され、市内の小中学校を通して子どもたちに配られるほか、学校関係者以外の人でも市内広報スタンドで手に入れることができます。



できあがった広報紙「こどもいちかわ」創刊号。



創刊号の子ども広報編集委員。左から新井小学校6年 大木初里[おおきういり]さん、新井小学校6年 坂田桃香[さかたももか]さん、大野小学校5年 坂田裕香[さかたゆうか]さん、大野小学校5年 土橋悟[つちはしさとる]くん。



広報課の職員から少しアドバイス。「あ、そうか、こうすればいいのよ」。学ぶことはたくさん!



編集会議では何を書けばよいのか、どんな紙面にするのかを話し合う。



松戸市にある千葉県西部防災センターで風速30メートルの風を体験中。風水害も大変だ!



聞き逃さないように真剣にメモを取る。

苦労したかがあったね! 反響に喜びもひとしお

「感想がこんなに届いている!」
「どれどれ、見せて」
「“家族で防災のことを話しました”
だって」

「いいね、うれしいね」

2003年7月15日に発行された「こどもいちかわ」創刊号に対してよせられたハガキは58通。編集委員の4人の顔がほころびます。同年代の子どもたちがつくった広報紙に、意見や感想、アドバイスまで寄せられました。

今後どのように編集委員が広報紙づくりを進めるのか、期待が高まります。



「自分の意見を書いているのがよかった」だって。きちんと読んでくれていたんだね。感想ハガキには4人ともくまなく目を通した。

第2号は私たちがつくりました! 10月15日に発行 テーマは「お小遣い」



子ども広報編集委員

大洲中学校 1年 利野優美恵 [としの ゆみえ]さん
大洲中学校 1年 三上直子 [みかみ なおこ]さん
下貝塚中学校 2年 早川那津実 [はやかわ なつみ]さん
下貝塚中学校 2年 井上公美 [いのうえ くみ]さん

できました、こどもいちかわ!

千葉光行市長に報告

2003年7月19日、4人は千葉光行市長にできたてホヤホヤの「こどもいちかわ」を手渡すため、市長室を訪れました。硬くなる4人に千葉市長は「いいテーマだね。『こどもいちかわ』の編集で、どんなことが大変だった?」と声をかけます。

「文章がなかなか思いつかなかった」とか「最初はみんな無口だった」など、制作中の苦労話をするうちに、だんだんと笑顔も出てきました。市川市の防災についても、取材してきたことを報告します。

災害に備えてどのような準備をしたらよいかについて記事を書いた坂田桃香さんは「地震や火事の怖さを、取材で体験したからこそわかった。」と話します。

市川市の水害対策に興味を持った土橋悟くんは家でも調査を続けました。「インターネットでも調べて記事を書きました」。

大木初里さんは「火災のなかでも、天ぷら火災の例なんか、お母さんた

ちにもよくある例だと思います。長電話するお母さんたちにも読んでほしいです」と読んでほしい人が子どもだけではないことを指摘。坂田裕香さんは「人が読みやすくまとめるのが大事。文字がいっぱいと読みにくいから、イラストとか写真をもっとたくさん入れたいな」と早くも次のステップに向けての意気込みを語ります。

本をよく読むという4人に千葉市長は「本を読むことが“書く”ことにつながると思います。いろいろな人の考えや経験を知ることが大切だと思うんだよね。記事を書くのにきっと役に立ちますよ」と話してくれました。

